

令和7年度 アンケート結果に基づいた学校評価

松阪市立鎌田中学校

<p>めざす学校像</p>	<p>「あい」あふれる鎌中の創造 ～学び「あい」、関わり「あい」、守り「あい」 地域とともにある学校づくりの推進～ ・主体的に学び、行動する生徒 ・他者と支えあい、社会（学校）をつくっていく生徒</p>		<p>重点目標</p>	<p>(1) 地域と協働する教育活動の創造（3つの「あい」の具現化） (2) 社会性を育む教育の推進（他者と支えあい、社会（学校）をつくっていく資質・能力向上） (3) 「未来を切り拓く力」を育む授業づくりの推進（主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善） (4) 命を大切にする教育の推進</p>
<p>重点目標</p>	<p>具体的な内容</p>	<p>評価指標・達成目標</p>	<p>学校評価委員会コメント</p>	
<p>地域と協働する教育活動の創造</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民が学校教育に参画する活動や生徒が地域社会に貢献する活動を創造する</li> <li>・「鎌中地域交流センター」や校区の学校（園）との連携を強化する</li> <li>・HPや通信、メール等を通して、積極的に情報を発信・共有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート①肯定意見 90%以上</li> <li>・生徒アンケート②～⑤について肯定意見 70%以上</li> <li>・公民館および市主催行事への参加</li> <li>・鎌田祭をCSとの共同開催に向けて積極的に取り組む</li> <li>・学年・学級通信・CSだよりの発行、HP等による情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学級や学校の行事に積極的に取り組んでいるという問いに肯定的に回答した生徒が90.1%と、このアンケート開始以降初めて目標達成に至った。今後も何事にも前向きに取り組ませたい。</li> <li>・鎌田祭の取組をはじめ、防災学習や教科学習に加え総合的な学習の時間を通して地域の方々とのつながりを感じられている場面は年々増えているが、あまりにも当たり前の日常になってきたためか、実感が薄まってきている。地域と協働する場面で、感謝を表す場を設けることで子どもたちにとってよりつながりを実感できることにつながるのではないかと考える。</li> <li>・本校のCSに関する浸透が保護者や生徒に十分でない実態があり、昨年度末に動画作成等PR活動に力を入れた。今後さらに広く周知徹底する必要がある。</li> <li>・地域と協働する教育活動の創造に関して、教職員は地域との連携・協働を日常的に意識しているが、生徒や保護者が地域の人のつながり等を実感できていない割合が増したことは残念である。地域と協働する活動で、生徒や地域住民が互いに意見や感想を交流したり、保護者への周知方法を更に工夫したりする等、改善を期待したい。</li> </ul>	
<p>社会性を育む教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会生活に必要なルールを身につけさせる</li> <li>・挨拶や言葉遣いなど基本的なスキルを身につけさせる</li> <li>・個性を活かし集団に貢献するよう、チームワークを身につけさせる</li> <li>・互いを大切にできるよう、礼節を身につけさせる</li> <li>・話し合いを通じ、意思決定力や合意形成力を身につけさせる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート⑥～⑩について肯定意見 70%以上</li> <li>・QU学校満足度 60%以上</li> <li>・挨拶運動の推進と声かけの実施</li> <li>・教職員の師範行動と生徒の規範意識の育成</li> <li>・清掃活動等環境整備に対する意識の向上</li> <li>・部活動の適切な運営</li> <li>・不登校生徒数の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつに関しては、「あい」あふれる鎌中を実現する第一歩として「元気な挨拶をする」よう指導を続け、「チームまもる」の方々が交通安全指導の際に挨拶運動を行っていただいたことで意識が高まったと考える。（生徒 86.5% 保護者 94.6%）</li> <li>・生徒が生活する町内であいさつすると、生徒からもあいさつが返ってくる。本年度よりCS活動の1つに挨拶運動を取り入れ、教職員と地域住民が共に取り組んだことも生徒の意識向上につながったと考える。</li> <li>・保護者が、スマホやゲーム時間を決めて一定のリズムで生活させられていないと回答した割合が35.1%となっており、この保護者の困り感が家庭学習に取り組みやすい環境をつくれていないと回答した割合16.9%にも影響していると考えられる。家庭と連携して家庭学習に取り組む環境と習慣が整うように取組を検討する必要がある。</li> <li>・保護者が、スマホやゲーム時間を決めて一定のリズムで生活させられていないと回答した割合が高く、この点が家庭学習にも悪影響を及ぼしている。こうした困り感を抱いている保護者は多いのではないかと。家庭内でのスマホやゲーム管理の好事例等を紹介・交流する機会があると、ヒントになり困り感の解消につながるのではないかと。</li> </ul>	
<p>「未来を切り拓く力」を育む授業づくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業スキルの向上を目指す</li> <li>・ペア・グループの活用を積極的に取り入れる</li> <li>・授業研究に積極的に取り組む</li> <li>・学習の基盤となる資質・能力の育成に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート⑪～⑮について肯定意見 70%以上</li> <li>・かまあいタイムの手法の授業活用</li> <li>・各教科における校内公開授業の実施</li> <li>・指導教諭を核にした幼小中連携と校区授業研究会および合同研修会実施</li> <li>・生活班や小集団活動を通じた仲間意識の形成</li> </ul>	<p>※この重点目標については、授業づくりに関する評価項目であるため、主として教職員の評価です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業時間については、集中して取り組んでいると回答した生徒が85.8%と全体的には前向きに取り組んでいるが、自分の考えをうまく表現できなかったり、学習内容が理解できていなかったりする生徒がどの教室にも在籍している。教員が生徒同士で考えたり教え合ったりする活動等を設定して意図的に生徒をつなぎ、だれ一人取り残さない教育の推進に、一層努力したい。</li> <li>・計画的に学習したり将来設計をしたりすることができていない生徒に対して、一人ひとりの生徒に寄り添った指導をしていく必要がある。</li> </ul>	
<p>命を大切にする教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別を見抜き、絶対に許さず、解消のために行動する力を育む人権教育を推進する</li> <li>・災害時に自他の命を守り行動できる力を育む防災教育を推進する</li> <li>・関係機関と連携し、交通安全教育を推進する</li> <li>・悩みや不安を受け止めるため、教育相談活動を充実する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケート⑯～⑳について肯定意見 70%以上</li> <li>・生徒指導部会週1回実施</li> <li>・登下校指導の実施</li> <li>・毎時間校内パトロール</li> <li>・教育相談週間年2回実施</li> <li>・人権教育行動計画の実行</li> <li>・KHR活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめや差別等を許さない意識は、生徒・教職員・保護者のいずれも高い。「命を大切にする教育」については、学校と家庭との共通理解に基づく取組が浸透してきている。</li> <li>・整理したカリキュラムをもとに、系統的に自他の命を守り行動できる力を育む防災教育を推進することができた。本年度の「ぼうさい甲子園」において大賞を受賞することができたことは、今後の取組を推進していくうえで励みになった。</li> <li>・困った時に先生や家族に相談できないと約25%の生徒が回答している。一方、教職員や保護者は相談しやすい接し方を意識しているのに、子どもに伝わっていない。子どもと大人との乖離が心配である。この点を大人が意識して、子どもの言動等の変化を見逃さず、傾聴する姿勢を大切にする必要がある。</li> <li>・多くの生徒がスマートフォンを持っている現状がある。保護者が子どもにスマートフォンを持たせている責任があることを自覚することと、保護者自身がSNSの危険性を理解しておくことが大事である。</li> </ul>	